

令和三年度 第一学年 確認テスト

十月十一日(月) 実施

第一学年( )組( )番 氏名( )

□ 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

弟は生まれて間もないのですが、いつも泣かないで一人でおとなしくねていました。母は穴を掘りながら、ヒロユキがおとなしいから助かる、と言っていました。

そのころは食べ物十分になかったのですが、母は僕たちに食べさせて、自分にはあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。ヒロユキは食べるものがあります。おもゆといっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行つて飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な食べ物でした。みんなにはとうていわからないでしょうが、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子はなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと。でも、僕ははかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も。僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたがなかつたのですが、それなのに飲んではしまいました。

あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、親戚のいる田舎へ出かけました。ところが、親戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物はなさいと言いました。僕たちは食べ物ももらいに行つたのではなかつたのです。引越したの相談に行つたのに、母はそれを聞きなかり、僕に帰ろうと言つて、くるりと後ろを向いて帰りました。

そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい顔、悲しい顔を、僕はあんなに美しい顔を見ました。僕にはあんなに美しい顔、美しい顔は、美しいです。僕はあんなに美しい顔、美しい顔は、美しいです。僕はあんなに美しい顔、美しい顔は、美しいです。僕はあんなに美しい顔、美しい顔は、美しいです。

① 自分はあまり食べませんでした。とあるが、母は何のためにかうしたと考えられますか。「食べ物十分になかったので、」の書き出しに続けて二十字以内で書きなさい。

② 僕は飲んでしまったのですとあるが、「僕」はなぜ弟の大切なミルクを飲んでしまったのか。「甘いもの」という言葉を使い、四十五字以内で書きなさい。

③ 「強い顔」、「悲しい顔」とは、母のどんな気持ちがこめられた顔か。次から一つずつ選びなさい。

- ア 子供を守る決意
- イ 空襲への恐怖
- ウ 誤解されたさびしさ
- エ 引越せないあせり
- オ 食べ物がないつらさ

④ 「僕」は、母が見せたこの顔をどのように感じているか。文章中から三字で書き抜きなさい。

⑤ 「胸がいつぱいになります。」とあるが、「僕」は「母」にどんな思いを抱いていますか。「あのとき」の「母」の様子にふれながら、母に話しかける言葉を三十五字以内で書きなさい。

□ 次の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

① 次の詩の情景を思い浮かべてみよう。

土 三好 達治

蝶の羽をひいて行く  
ああ

ヨットのようだ

② この詩では、蝶にひかれていく蝶の羽が、ヨットにたとえられてい  
る。この表現によつて、ゆらゆらと運ばれていく蝶の羽が、波に揺ら  
れながら進んでいくヨットの帆のイメージに重なる。題名の「土」も、  
広い海のように思えてくる。

③ このように、ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すことを、  
比喩という。「ヨットのようだ」のように、「まるで」「ようだ」「みた  
いだ」などを使つて表すこともあるが、「あの人はずく辞書だ」のよう  
に、それらの言葉を使わずに表現することもある。大切なことは、た  
とえるものと、たとえられるものとの間に共通点があり、それが広く  
共有されていることだ。蝶の羽は、ヨットの帆に形が似ている。だか  
ら、読者は瞬時に情景を思い描く。「あの方は歩く辞書だ」と聞けば、  
「あの人」が豊富な知識をもち、たずねればいつでも必要な知識を  
えてくれることが伝わってくる。辞書にはたくさんの方の言葉の意味が  
つており、知りたいことがあるときに役立つものだ。と多くの人に共有  
されているからだ。

④ したがつて、相手がよく知っているものでたとえれば、未知のもの  
でもわかりやすく説明することができる。例えば、図のような形の部  
品をあなたならどのように説明するだろうか。真ん中に穴の空いた丸  
いドーナツを相手が知っていると、一言で「ドーナツのような形」  
といふことができる。しかし、もし比喩を使わないとしたら、言葉を  
尽くしても、伝えることは難しいのではないだろうか。このように、  
比喩には、形状をわかりやすく伝える効果がある。

⑤ また、比喩には、物事の特徴をより生き生きと印象づける効果もあ  
る。例えば、「雷のような大声」という場合、声の大きさを響き渡る雷  
鳴にたとえているだけでなく、雷のもつ激烈さや迫力、おそろしさな  
どのイメージも重ねている。

⑥ 実は、こうした比喩の発想は、普段私たちが比喩だと認識していな  
いような表現の中にも生きていく。例えば、「頭の中に入れておく」「そ  
のことで頭の中がいつぱいだ」「緊張して、頭の中が空っぽになる」  
などという表現では、「頭」が「入れ物」、知識や感情が「その中に

入っているもの」として捉えられている。「胸がいつぱいだ」「心が  
満たされる」なども同様だろう。  
⑦ さらに、「深く感謝する」「深い感動」のような表現にも、比喩  
の発想が生かされている。本来、「深い」は、「深い池」のように、  
表面からの距離が離れている様子を表す。しかし、表面からはうか  
がいが知れないほどの中身があるといった意味で、精神活動につい  
ても「深さ」が用いられる。思考や感情など、形のないものでも、こ  
うした比喩の発想によつて表現していくことができる。  
⑧ 比喩は言葉の世界を豊かに広げる。日常生活の中でも、場面に  
応じて比喩を使つてみてほしい。使いこなせば、きつと、表現は輝  
きだし、伝えたいことをよりわかりやすく、印象的に相手に届ける  
ことができるだろう。私たちは、比喩を使い、表現を創造していく  
力をもっているのだ。

① この文章を「序論・本論・結論」に分けた時、「本論」に  
あたる段落はどこか。次の文にあてはまるように答えなさい。  
○段落から□段落。

② 比喩とはどんなことだと述べているか。文章中から書き  
抜きなさい。

③ ④段落と⑤段落の役割を、次から一つずつ選びなさい。

ア 前の段落と異なる側面の事例を挙げている。

イ 前の段落と相反する考え方を提示している。

ウ 前の段落の問いに対する答えを説明している。

エ 前の段落の内容を受けて説明を補足している。

④ 比喩には、どのような効果があるか。文章中から二つ書  
き抜きなさい。

⑤ 筆者の考えに合うものを、次から一つ選びなさい。

ア 表現を生み出して行くには、比喩を使いこなす必要がある。

イ 伝えたいことを印象的に伝えるには必ず比喩を使うべきだ。

ウ 比喩を場面に応じて使えるように、普段から練習してほしい。

エ 比喩を使いこなして、言葉の世界を豊かに広げてほしい。

三 次の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

「びっくりした。去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かっていた。」

「やめろよ。押すなよなあ。俺がわざとぶつかつたみたいだろ。」

「自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。」

「私は戸部君をにらんだ。」

「なんか用？」

「宿題をきこうと思つて来たんだよ。そしたらあいづらがいきなり押してきて。」

戸部君はサッカー部のだれかといつもふざけてじゃれ合っている。そしてちよつとしたこづき合いが高じてすぐに本気のけんかになる。わけがわからない。戸部君は私の前に差し出した。

「この問題わかんねえんだよ。『あたかも』という言葉を使って文章を作りなさい、だつて。おまえ得意だろ、こつこついうの。」

「私だつてわからない。いっしょだった小学生のころからわからない。入つてくるのか。なんでいつも私にからんでくるのか。なんで同じ塾なのか。」

「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」

隣の教室の授業も終わつたらしく、椅子を引く音がガタガタと聞こえてきた。私は戸部君を押しつけるようにして立ち上がると廊下に向かつた。

戸部君に関わり合っている暇はない。今日こそは仲直りをするつもりで来たのだ。はられたポストや掲示を眺めるふりをしながら、廊下で夏実が出てくるのを待った。

夏実とは中学に上がつてもずっと親友でいようと約束をしていた。だから春の間はクラスが違つても必ずいっしょに帰っていた。それなのに、何度か小さな擦れ違いや誤解が重なるうち、別々に帰るようになってしまった。おたがいに意地を張つていたのかもしれない。

お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそつととれた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなつていて、けれどかまわれない。去年の秋、この花で何か手作りに挑戦しようと言つてそのままになつてしまった。香水はもう無理でも試しにせけんを作つてみよう、そして秋になつたら新しい花を拾つて、それでポプリなんかも作つてみよう。・・・そう誘つてみるつもりだつた。夏実だつて、私から

言いだすのをきつと待つているはずだ。

夏実の姿が目に入った。教室を出てこちらに向かってくる。そのとたん、私は自分の心臓がどこにあるのかがはつきりわかつた。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸つてはくと、ぎこちなく足をふみ出した。

「あの、夏実……」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だった。夏実は一瞬とまどつたような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすつと顔を背けた。そして目の前を通り過ぎて行つてしまった。音のない、ま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

騒々しさがやつと耳に戻つたとき、教室の中の戸部君がこちらを見ていることに気づいた。私はきつとひどい顔をしていて、唇がふるえている。目のふちが熱い。あまりが悪くてはじかれたようにその場を離れると、窓に駆け寄つて下をのぞいた。裏門にも、コンクリートの通路にも人の姿はない。どこも強い日差しで、色が飛んでしまったみたい。貧血を起こしたときに見える白々とした光景によく似ている。

① 「わかんないよ。そんなの自分で考えなよ。」と言つたときの「私」の気持ち、次から一つ選びなさい。

ア 自分でやらない戸部君を激しく非難する気持ち。

イ 戸部君と仲がよいことを知られたくない気持ち。

ウ 戸部君のふざけたような様子にいらつく気持ち。

エ わからないふりをして困らせようとする気持ち。

② 「廊下で夏実が出てくるのを待った。」とあるが、このとき「私」と夏実との関係はどうなつていたか。ひと続きの二文を探し、最初の文の初めの五字を書き抜きなさい。

③ 「お守りみたいな小さなビニール袋」とあるが、この「ビニール袋」の中には、何が入っているのか。

④ 今でも「お守り」のような存在として「私」が持ち歩いているのは、なぜだと思われるか。

⑤ 「お守り」のような存在として「私」はこのビニール袋にどんな願いをこめたとおぼれますか。十五字以内で書きなさい。

四 次の傍線部の漢字の読みを答えなさい。

① 話に動揺する。 ② 庭木の伐採。 ③ 靴を履く。

④ 円滑に進む。 ⑤ 幾つかの疑問点。

五 次の傍線部を漢字に直しなさい。

① よんさいの誕生日。 ② しんせきの家に行く。

③ 野球部のこもん。 ④ マスクのふきゆう。

⑤ せんさいな神経

六 次の熟語の読みを答えなさい。(完答)

① ア 有益 イ 有無

② ア 後半 イ 後先

③ ア 相互 イ 首相

④ ア 形状 イ 形相

⑤ ア 言動 イ 過言

七 次の傍線部の漢字の読みを答えなさい。(完答)

① ア クラスで人気がある。 イ 夜は人気がない道。

② ア 舞台の下手から現る。 イ 演技の下手な役者。

③ ア 森の多様な生物。 イ 生物を冷蔵庫で保存する

④ ア 背筋をきたえる。 イ 背筋が寒くなる話。

⑤ ア ごみを分別して捨てる。 イ 物事の分別がつかない。

一年	組	番	氏名	解答
----	---	---	----	----

※「○字以内で書きなさい。」という問題に対しては、○字の八割以上を書くことになっている。字数が足りない場合は減点2点。

知識及び技能	思考判断、表現等
合計	

一

①	食べ物が十分になかったので、	自分の分を子供たちに食
②	べさせるため。	※「…ため。」なしは減点2点
③	甘いものがぜんぜんなかったので、	
④	弟の甘いミルクはよだれが出るほど	
⑤	飲みたいものだったから。	※「…から。」なしは減点2点
⑥	強い顔…ア 悲しい悲しい顔…ウ	④美しい
⑦	⑤お母さ	
⑧	んは、僕たちを必死で守ってくれた	
⑨	んだよね。本当にありがとう。	

二

①	3 段落から 7 段落	②ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すこと
③	④形状をわかりやすく伝える効果	⑤物事の特徴をより生き生きと印象づける効果
④	④	
⑤	⑤	

三

①	②それなのに	③銀木犀の花
④	④夏美との思い出が詰まった品だから。	※「なぜ」の問いに対して「…だから」等の文法で答えていないものは減点2点
⑤	⑤夏実と仲直りしたいという願い。	

四

①	②	③	④	⑤
①	②	③	④	⑤
①	②	③	④	⑤

五

①	②	③	④	⑤
①	②	③	④	⑤

六

①	②	③	④
①	②	③	④

七

①	②	③
①	②	③
④	⑤	